

県内の

先進組合事例紹介

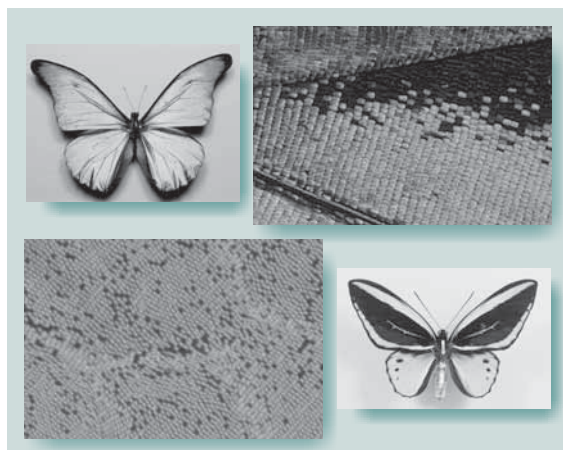
本会では、毎年、全国中小企業団体中央会と連携して、テーマを決め共同事業等先進的に取り組んでいる組合事例を収集し、情報提供しています。今年度は、「新製品・新技術・新サービスの開発」、「ITを活用した事業推進」を取り上げ2組合調査いたしました。

なお、全国の先進組合事例紹介は、3月頃に全国中小企業団体中央会のホームページ上で公開を予定しております。

新製品・新技術・新サービスの開発

高解像度で正確な色再現を可能にする最先端のデジタル撮影装置の開発に成功

組合名	山形視覚創成協同組合
住所	〒990-2422 山形県山形市中桜田3-1-3
電話番号	023-634-8717
設立	平成18年8月
出資金	850千円
組合員	17人
主な業種	写真撮影・印刷・情報サービス
URL	http://www.yvc.or.jp



1 背景と目的

貴重な文化財は損傷や盗難の危険にさらされており、可能な限り正確な情報を記録しておくことが求められている。総務省が中心となって行ったナチュラビジョン基礎研究がきっかけとなり、大学や大手企業と共同研究を実施してきた。このようなシステムが実現できれば、文化財に傷を付けることなく被写体全体の記録・分析を行うことができ、維持管理に貢献するとともに、研究活動にも大きく貢献することができる。

また医療分野においても、処置前・処置後の状態について可能な限り多くの情報を正確に画像として記録することは、医療従事者と患者の双方にとって大きな価値がある。さらに、正確な記録は、直接患者を診ることができない遠隔診断や救急医療の現場においても、支援技術として貢献できるものである。

2 事業・活動の内容

超高精細画像（1.8億画素）の記録が可能なデジタルカメラを同業他社に先駆けて購入し、文化財の記録などを受託していた。しかし画素数の向上だけでは、被写体の材質・組成に関する物理特性は3原色（RGB）に基づくカメラでは記録できないため、分光スペクトル（マルチバンド／マルチチャネル）の画像撮影技術に着目し、撮影現場への導入・普及に向けた実用的なシステムの研究開発に取り組んできた。大学や企業などと共同研究開発を進めた結果、世界で始めて6バンドの実用的なシステムが完成した。